
ある日のお妙さん

榎原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある日のお妙さん

【Zマーク】

Z3012P

【作者名】

榎原

【あらすじ】

ある日、妙は寝坊してしまう。

特にすることも無い妙は、万事やにお皿(はん)を持っていくことにする。

1 寝坊してしまったわ（前書き）

投稿しちゃ、しちゃと強いてせつと投稿でもしました。
駄文ですが、読んでくれると嬉しいです

1 寝坊してしまったわ

(「はない、少しねまつてしまつたわ）

私はゆっくりと体を起します。

外はいつも同じでありますから、でも不思議と安心する。

(「そうだ新ちゃん、もう起きるわよね。朝ははん作らなこと。」) やつして今日も動き出す。

居間に着くと、

「あ、姉上おはようござります。」

聞こえてくる新ちゃんの声。私は返事をかえす。

「おはよう、新ちゃん。朝はんびつしましょ。」

すると新ちゃんはやや早口で言つた。

「だ、大丈夫です姉上。あ、朝はんはもう作つましたから。アハハ・・・」

「そうなの?」めんなさい。明日からは、「

「だだだだ大丈夫ですよ。なんならずっと僕が作りますよ。」

「いいわよ。玉子焼き作るの好きだもの。明日は私が作るわ。」

そのとたんなぜか新ちゃんの顔がひきつったように見えた気がした。

そして、

「やうだ、もう万事屋いかないと。行つて来ますね、姉上。」

「あっ新ちゃん、」

やつして脱兎の如く去つてしまつた。

(変な新ちゃん。)

そう思つたが、気にしないことにした。

「今日はどちらしちよ。」

誰に言つてもなく、つぶやいてみた。

今日は特に何もないし、何をしようか。

少し考えて、思いついた。

「万事屋に、お昼もつていってあげようかしら。」

（朝ごはんのこともあるし、ね。）

台所に行こう。そう思つて腰を上げた。

1 痞坊じてじゅつたわ(後書き)

なんか続きます。

2、卵焼き（前書き）

なんかすいません

2、卵焼き

「さて、」

何を作らつか一瞬迷う。

(まあ、一つしかないけどね。)

得意な卵焼きを作ることにした。

(今日は甘めにしてみようかしら。)

卵をといて、砂糖をいれる。フライパンにいれて焼く。

「大丈夫、きつとうまくいくわ。」

自分をはげまして続ける。

できたものをお弁当箱にいれて、

「できた。なんだかうまいできたきがする。」

「これを万事屋に持つていーじ。」
やつと皆よひこぶわ。

ふと時計を見る。針は10時半をさしている。

(少し早いわね。まだまだお昼ではないわ。)

どうしようかと思ふ、考える。

そんな時、庭先から声が聞こえた。

2、卵焼き（後書き）

声の正体はこいつもぱいっとあらうだとおもこます。

部活で朝練きつこです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3012p/>

ある日のお妙さん

2010年12月10日22時30分発行